

## 博物館実習を終えて

井上 素子

8月初旬、7日間の博物館実習を行いました。博物館実習は、学芸員資格をとるために必要な実習で、当館は自然系分野を専攻する学生を受け入れています。今年も6人の学生を迎えました。

博物館実習では、資料整理・普及活動・展示物制作・展示解説・来館者対応など、学芸員の多岐にわたる職務をできる限り多く体験してもらっています。実際に、学芸員の採用は非常に少なく、実習生のうち、学芸員になる人はほんの一握りかもしれません。しかし、博物館にとって実習は、外から見えにくい博物館の仕事を理解してもらえる良い機会であり、同時に新鮮な目を見た外からの意見を聞くことができるチャンスでもあります。

そこで、実習生には来館者の動向を観察してインタビューをしてもらい、自らが感じた当館の課題を報告してもらっています。その結果、改めて観光目的の方から、専門的な知識を求める方まで、

さまざまな利用者層があること、そのほとんどの層の方に、「来て良かった」と満足していただいていることを実感しました。そして、さらに良くしていくためにはどうすればよいのか、実習生と共に考えることができました。来年もどんな実習生が来てくれるのか楽しみです。

(いのうえ もとこ・主任学芸員)



展示物の製作をする実習生

## 共催展「アンモナイト」を実施しました

北川 博道

「化石」というと、真っ先にアンモナイトを思い浮かべる方は少なくないのではないのでしょうか。小学校や中学校の理科の教科書にも載っているアンモナイト。名前は知っているけど、よくよく見たことは無い、という方も多いはず。そんなアンモナイトをテーマにした共催展「アンモナイト」が羽生市立郷土資料館において開催されました。当館が所蔵するアンモナイト化石を中心に、いつもは地学展示ホールに展示されている恐竜「ガリミムス」の復元骨格も初めて当館を出ました。イメージ通りのザ・アンモナイトという形のものから、異常巻と呼ばれる奇妙な形をしたアンモナイトまで、多種多様なアンモナイトを展示。一度にこれだけ多種多様なアンモナイトが見られる機会もそうは無いでしょう。

当館のアンモナイトコレクションには、多種多様なアンモナイトが含まれています。平成26年に特別展で大々的に展示して以来、館外では群馬

県立自然史博物館や茨城県自然博物館などで展示されてきましたが、当館ではなかなか展示する機会はありませんでした。普段収蔵庫で保管されているコレクションが日の目を見る良い機会となりました。

この展示をきっかけに、当館を訪れていただいたり、アンモナイトを中心に化石や自然に興味を持っていただければ嬉しいです。

(きたがわ ひろみち・学芸員)



当館学芸員による展示解説の様子